

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2023年 10月 9日 No. 32

国際鉄道安全会議に参加！ JR東労組は2つの発表を行う！

JR 東労組は、JR 総連のご協力のもと、10月2日～4日に南アフリカのケープタウンで開催された「国際鉄道安全会議」に参加しました。JR 東労組は「地方ローカル線」「自動運転とワンマン」の2テーマにおいて問題意識を世界に発信するとともに、各国の安全確保に対する取り組み等学び、労働組合として働く者の視点で職場実態等を踏まえた提言を行うことの重要性を再認識しました。

テーマ① 安易な赤字路線の廃止をするのではなく、地域の足を守り、地域に貢献し、みんなに親しまれる鉄道をめざすための提言

●要旨●

コロナ禍による赤字に伴い、国を挙げた地方ローカル線の見直し論が本格化しています。併せて、黒字化とその先の収益拡大のために「融合と連携」による会社施策が矢継ぎ早に進められるものの、期を同じくして事故・事象が多発している現実があります。そこで、鉄道労働者の技能向上による安全性向上と、地域の足を守ることを両立を図るための提言を行いました。



テーマ② 安全を前提としたワンマン運転とドライバレス運転を、職場実態に踏まえどのようにめざしていくか

●要旨●

JR東日本では、ATOやホームドアの整備に伴い、ワンマン運転の拡大やドライバレス運転の導入がめざされています。一方、短絡不良による異線現示や、傾いた電化柱との衝突事故など、カメラやセンサーでは防ぎきれない事象も生じています。自然災害や温暖化を含め、あらゆる「想定外」を無くす努力をすることや、最後の砦たる人を育てる大切さを問題提起しました。



国際鉄道安全会議とは

1988年の東中野事故を契機にJR東労組とJR東日本が労使で呼びかけ、1990年に鉄道の安全について国や立場を超えて話し合う会議として創設されました。この会議を通じて、事故は処罰では無くせないことが論議され、世界の鉄道の安全対策の柱として「責任追及から原因究明へ」の安全哲学が広まりました。会議には各国の鉄道会社(国鉄)や労働組合、研究者などが出席し、安全に関する知見を互いに学び合っています。現在、日本からはJR東労組が出席しています。

安全第一を実感できるJR東日本を創り出そう！

